平成 28 年度　第１回鶴見・あいねっと推進委員会　議事要旨

日時：平成２８年７月１４日（木）午前１０時～午前１２時
場所：鶴見区役所６階８号会議室
出席者：【推進委員】
小山委員長・八森副委員長
遠藤委員・大野委員・押山委員・河西委員・烏田委員・河合委員・杉浦委員
高柳委員・田中(志)委員・田中(博)委員・富樫委員・藤田委員・増子委員
【事務局】
区長、福祉保健センター長、同センター担当部長、福祉保健課長
高齢・障害支援課長、こども家庭支援課長、生活支援課長、総務部長
地域力推進担当課長、地域力推進担当係長、区社会福祉協議会事務局長
区福祉保健課、区社会福祉協議会

１　開会
・写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認

２　鶴見区長挨拶

３　新任委員紹介
押山委員、高柳委員、田中(博)委員より自己紹介

４　事務局職員紹介
人事異動により変更になった職員の紹介

５　議事

（１）第３期計画の概要について
・福祉保健課事業企画担当係長より説明。

（２）平成２８年度のスケジュールについて
・福祉保健課事業企画担当係長より説明。意見等なく承認

（３）話し合い　～第３期計画の推進について～

（進行役）
鶴見区全体の現状を踏まえて、委員のみなさんの活動の中から感じていることなど、意見をいただきたい。
まずは、新しい推進の柱となった３つ目の柱「健やかに暮らせる地域づくり」について、考えていきたい。

（委員）
保健活動推進員は、地域のみなさんが元気に健やかに生活できることを目的に活動している。昨年度の鶴見・あいねっと推進フォーラムで「生二ひまわり会」の発表をした際に、若い人とも関わりを持ちたいという話をさせてもらったが、今年は横浜商科大学と連携して、6 月 28 日に勉強会の開催をすることができた。大学の授業の一

環として開催したので学生は単位を取ることもでき、留学生 10 名を含む 36 名の学生が参加してくれた。当日、区社協からボランティア活動の紹介をしたので、参加後にボランティア活動したいとの声を聞くことができた。教授からも、今後も地域の方達と一緒に勉強会をすすめたいという話があったので、今後も継続したいと考えている。

（委員）
　スポーツ推進委員では、スポーツを通じて地域における健康づくりの活動をしている。現在、区内の地域ケアプラザではボッチャが盛んであり、講師として、さわやかスポーツ普及委員会より人材を派遣している。ボッチャ大会は年２回開催しており、7 月 3 日は 25 組が参加した。また、グラウンドゴルフ大会は毎月１回土曜に開催しており、約 50 人が参加し、人気が高い。

（委員）
　老人クラブが行っているシニア大学でも、7 月 26 日にボッチャの講座を持っている。今年度シニア大学には 51 名の参加があるが、大学内でも人気が高い。

（進行役）
　ボッチャというスポーツはどのようなスポーツなのか。

（事務局）
　鶴見・あいねっと第３期計画の冊子 55 ページに、ボッチャが掲載されている。柔らかいボールを用いて、障害のある方から子ども・高齢者まで参加できるスポーツ。

（委員）
　カーリングとボーリングを掛け合わせたスポーツである。

（進行役）
　ボッチャは頭脳戦のスポーツということができそうだ。
　続いて、1 つ目の柱である「つながりのある地域づくり」について考えていくため、委員の皆様の活動紹介をお願いしたい。

（委員）
　駒岡地区は交通の便が良くなり最近人口が増加しているが、その分、隣近所の付き合いが薄くなっている。あいさつを交わす関係に発展するまでに時間がかかっており、親しくなるまでに３年くらいかかる。転入者に子どもがいれば比較的早く、子どもを通じて親しくなることができる。また、犬などの動物・ペットがいる場合、散歩などで外出するので、その際に声掛けができる。
　地域の取り組みとして、転入者が「町を知らない」ので、学校やウォーキング等を通じて町を知ってもらう機会を作っている。また、清掃活動には 40～50 名参加してくれているが、駒岡にある遺跡を知らないという人が多いので、清掃活動を通して伝えることもしている。
　最近では外国の人も非常に多くなってきており、保護者は日本語を話せない方もいるが、皆さんとても真面目である。子どもは日本語を話すことができるので、子どもとの絆づくりは大切で、あいさつを通じて仲良くなっている。
　こうした地域の関わりの中で、町が良くなっていると考えている。

（委員）
　ボランティアが作ったお弁当を、地域の高齢者の方々に配る活動をしており、お弁当の配達を通して高齢者の方々と接点をもち、交流の場として困りごとなどを聞いている。話を聞く中で、私達ボランティアが解決できないことがあれば、地域ケアプラザにつないでいる。
　今年度より、各地域ケアプラザに生活支援コーディネーターという新しい職種が配置されたので、生活支援コーディネーターの役割はどんなことなのか、私達が行っているボランティア活動とどういうつながりをもっていけば役立つのかを勉強しながら活動していきたい。

（進行役）
　様々なニーズを関係機関につないでいるという話をいただいた。
　今、生活支援コーディネーターの話があったが、コーディネーターの役割や取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

（事務局）
　横浜市全域で地域包括ケアシステムの構築を進めており、地域課題を中心的に解決することを目的として今年の４月から各地域ケアプラザに生活支援コーディネーターが配置された。
　例えば、配食サービスをしたい側と受けたい側の間に入ってつなぎあわせる役割を担うなど、介護保険以外のサービスを受けたい方とサービスを提供したい方をつなぎあわせることが役割である。
　潮田地域ケアプラザには分かりやすい説明チラシがあったので、機会があればご覧いただきたい。

（進行役）
　話のあった潮田地域ケアプラザにも話を伺いたい。

（委員）
　生活支援コーディネーターは、サービスをつなぐ役割があるが、現状ではつなぐべきサービスが足りない状況にある。潮田地域ケアプラザでは５地区担当しているが、地区により状況は様々で、地域の方々が自分達の地区の良い取り組みに気がついてもらえるよう、既にある良い取り組みを知ってもらい、活動が広がっていけるように、またそこから、新たな担い手作りや不足している活動を地域の方々と一緒に考えながら、新たな活動に結びつけられるようにしていきたい。
　2025 年問題を迎えるにあたって、地域のみなさんが安心して迎えられるように、地域にあった取り組みを職員と一緒に考えている。

（進行役）
　地域でどんな担い手がいると良いのか、地域の中でできることを考えて、地域の活動を作る・つなぐことをされている。住民が地域の中で生活するために必要な活動を住民自身で作っていくということで、これまで以上に「地域」に焦点があてられているのだと考える。矢向地域ケアプラザにも話を伺いたい。

（委員）
　地域性が異なるので、その地域でどんなことが必要なのか、データを集めて必要な情報収集を行っており、区社協に配置された第１層コーディネーターとともに、一緒

に取り組んでいる。
　地域の中には、ボランティアによるお弁当の配達や助け合いのボランティア団体などあるが、地域包括支援センターの職員は利用者宅の訪問で、その方に必要なサービスを見極め、介護保険サービスなのか、それ以外のサービスなのかコーディネートしている。

（進行役）
　第３期計画は、福祉保健を取り巻く状況がまた大きく変わっていく時期であると考える。
　次に、子育て分野について話を伺いたい。

（委員）
　就学前の子どもがいる世帯のうち、横浜に来れば保育園に入ることができると思っている方がいまだに多く、子育て世代の転入者が非常に多い。子育て支援拠点を運営していく中で、子育て中の親子が地域とつながっていけるといいと考えている。
　地域のことを知ってもらう機会として、「ままっぷ」を活用している。「ままっぷ」は単なる地図ではなく、坂が多い鶴見の地域を反映し、ベビーカーでの移動が難しい坂道やサロンなどの必要な情報が網羅されているのでとても便利である。
　相談者に、地域のひろばとして「つどいの広場」や「ふらっとる一む」などのサロンを紹介しているが、曜日固定だと参加しにくく常設を希望する意見も多く聞かれる。
　横浜市では、就学前の児童が多い区から子育て支援拠点のサテライトが設置されることになり、昨年度は港北区に拠点ができた。今年度は鶴見区になっているが、拠点場所が見つかっていない状況である。つどいの広場である「はなはなひろば」は、建物の耐震問題など、鶴見区では活動拠点場所の問題がある。
　子育て中のママ達は、精神的に追い詰められることもたくさんある。また、発達障害のあるお子さんを育てている親御さんにとっては、心が弱る現状もある。子育て中の若い世代であっても、健康に関することはとても大事だと考える。
　また、子育て中の方は子どもを預ける所が少ない現状もあり、がん検診等がなおざりになっていることも少なくない。「まめっこひろば」は、他にはない一時預かりをやっているが、そういった現状を踏まえ、色々と情報交換をしていきたい。

（委員）
　自身の第１子が今年で 20 歳になるが、子育て教室卒業後にどこにも行く場所がない時代に、育児サークルを立ち上げたのが今の活動のきっかけになった。そのときに保健師が後押ししてくれたおかげなので、活動を支援してくれる人がとても大事だと考える。
　活動をしていく中で、一番のネックは場所の問題だった。はじめはお金もなく来月行う場所も確定しない中で、自宅で始めたのが 12 年前。その後、私学の学校の中の場所を提供してもらいながら活動し、その後、行政からの支援も受けられるようになった。
　「まめっこひろば」は、普通の保育園と違って全員が一時預かりで、預かり時間や理由も様々。がん治療中の保護者や、診療内科に通う保護者もいる。また療育センターに通っている子どもが半分くらいいる。ひとりひとりに接しながら、保育の場というよりは、保護者・ママ達への支援の関わりになっており、関わっていく中で、ママ達も徐々に変わっていく。「自分も変わりたい」「社会貢献したい」などの気持ちが生まれ、実際に利用者からスタッフになった人もいる。
　「ふらっとる一む」も週１回運営している。定年退職したスタッフがいるので、子

どもに対して、おばあちゃんのように関わってもらっていて、祖父母が遠方にいる子どもも多いので、多世代交流の機会にもなっている。まだ地域とのつながりは少ないが、これからその機会を増やしていきたいと考えている。

（進行役）
　子どもへの支援だけでなく、保護者を含めた家族全体を支援する必要性があり、多様なニーズがある中で専門職との関わりが大切というお話をいただいた。
　最後に、２つ目の柱「必要な人に支援が届く仕組みづくり」についての活動を紹介いただきたい。

（委員）
　民生委員・児童委員は、支えあい・見守り・お互いの理解促進を中心に活動している。災害時要援護者の取り組みでは、民生委員だけでなく、保健活動推進委員、自治会、老人会と共に支えていく活動をしている。
　また、鶴見区は外国人の方が多いというデータがあるが、私は民生委員活動とは別に、20 年以上に渡り外国の方と接している。他の地域でヘイトスピーチなどのニュースがあるが、ヘイトスピーチの起こらない雰囲気づくりをしていくことが大事だと思い、ＮＰＯ法人「こんにちは国際交流の会」で、色々な国を理解してもらおうと国際委員会で取り組みを進めている。7 月 17 日に開催を予定しているが、今年はミャンマーの若い女性７人がミャンマーの国を紹介する。

（委員）
　保健活動推進においては、体の健康だけでなく心の健康が大事だと考える。また、鶴見区は禁煙・分煙活動や健康ウォーキングポイントへの関心も低い方なので、みなさんのお力添えをいただきたい。
　あいねっと活動は３期目になり、２期目まではひとつひとつの活動を作り出す時期だったと思うが、３期ではそれらの活動をどうつなげていくかが重要である。生活支援コーディネーターが配置され、地域ケアシステムの構築も進んできており、地域の課題をひとつひとつ解決していくことは「連携」につきるのではないか。
　地域で課題を見つけることができても、専門職につなげるシステムが出来ていないと解決につながらない。そういう意味で、支えあい、見守り、情報という仲介の柱は大事になってくると考える。
　地域の課題を発見するためには、日常の見守りが大切で、３年前に情報の共有化ということで、沢山の見守りが必要な方の情報を地域に提供していただきありがたいが、情報を解決する方法がなかなか難しい。民生委員だけでは手に負えず、保健活動推進員にも広げたが、まだ支えきれないのが現状である。これからは、地域全体で見守り活動をしていくことが大切なので、各団体間の横のつながりをしっかりして、お互いの得意技をつなぎ合うシステムがこの中でできていけば、あいねっとの成果になると思う。

（進行役）
　第３期は、「具体的に解決にする」「アクションを起こす」そのためにどう連携していくかを具体的にすることが大切というお話をいただいた。
　次に、障害分野について話を伺いたい。

（委員）
　以前は障害のある子どもたちの将来や生活についての心配だったが、保護者の高齢

化の問題がでてきている。実際に片親になった方もいて、各作業所からも、そのような声が聞かれ、保護者の高齢化問題をひしひしと感じている。
　障害者の社会参加、地域で暮らすために何が必要かを考え取り組んできたが、親の高齢化が問題になってくる中で、小規模のグループホームや施設も待機待ちという厳しい現状がある。

（委員）
　精神障害者の家族会を行っている。感じていることとして、何か事件があるとすぐ「精神障害」というようなことが話題になってしまうことが怖い。世間の偏見もあるが、家族も隠さず、地域や支援者のお世話になろうという気持ちでよいと思う。100人に１人、精神障害者がいる時代なので、隠していく必要はないと考える。
　家族会の活動は７年目になった。過去鶴見には「はまつる会」という市内でも先駆的な家族会があった。しかしながら、メンバーが徐々にいなくなり途中で頓挫しましたが、その必要性から役所の支援もあり、活動を再開した。
　家族の心のやすらぎ・安定が、本人の安定や薬になる。医療につながると同時に、家族だけで抱え込まないで、同じように苦しんでいる仲間がいることを知って、みなさんの応援をいただくことが大切である。
　障害のある本人が、自分のことは自分でできるように、できれば地域に貢献できるようになること、精神障害には「全快」ということはないが、「寛解」の状態で社会に出ていけるよう、家族同士が連携を取り合い、人と人とのネットワークがとても大事だと思う。

（進行役）
　色々なことを隠さずに出せるような地域を、この「あいねっと」でも、作っていければいいのではないかというお話をいただいた。

（委員）
　介護者の会おりづる会で活動している。私達は認知症介護が主であるが、今のお話を聞きながら、「横のつながり」「助け合い」「隠さない」ということは、全てに通じていると思った。老老介護、認認介護、ダブル介護問題などあるが、地道に皆さんで話を聞きながら、励まし合いながらつながっていき、皆さんで頑張っていくことが大切ということを改めて感じた。
　日頃活動していて感じることは、エリアごとのデイサービスの事業所マップがあると便利だと思っている。サービスの一覧表はもらうのだが、住所の表記だけでは場所がわかりにくいので、目で見えるマップがあると嬉しい。

（進行役）
　色々な資源の視覚化したマップがあるといいのではというご提案もいただいた。
　また、話し合いの中で、具体的で色々な課題が出てきた。キーワードとしては、「みんなで横につながっていこう」「地域の中で問題は見えてきているので、解決して実際に行動にうつす」そのためには、「色々な人達とのつながりが必要」という意見が出ていた。
　３期は、「解決」「アクション」の期になるのではないかという感じを受けた。

（４）平成 28 年度推進フォーラムについて
　・鶴見区社会福祉協議会事務局次長より説明。
　・27 年度振り返りおよび 28 年度案の提示。

【テーマ・キーワードについて】
・すぐに意見が出ないため、企画委員を中心に決めることで承認。

【推進フォーラム概要について】
・事務局の提示した案で承認。詳細については企画委員会で調整して進める。

【企画委員の選出について】
・鶴見区社会福祉協議会事務局長より説明。
・昨年度から引き続いて、藤田委員の属する鶴見区障害児・者団体連合会から１名選出
・新しい３つ目の柱「健やかに暮らせる地域づくり」は、健康づくりの関連もあるため、河西委員の属する鶴見区保健活動推進員会から１名選出
・以上２名を企画委員とすることで決定

（５）その他
・つるみ・地域元気づくり事業について地域力推進担当係長より説明。
・次回は 29 年１月に開催予定

６　閉会